

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大項目1～13に関して設定した諸目標を達成することによって、本研究科の使命・目的を実現する。	→大項目1～13において掲げられた諸目標に関して、それらの達成度の維持・向上。	B	B	B	B	/
2. カリキュラムや教員組織等が本研究科の使命・目的に照らして妥当か否かに関して、常時継続的な検証努力を行う。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	C	C	C	B	/
3. 課程博士の学位と修士の学位を安定的かつ円滑に輩出することができる、より適切な仕組みの構築を図る。	→前期課程・後期課程への入学者数、入試説明会の回数と参加者数。	C	B	C	B	/
					☆	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	大項目1～13に関して設定された諸目標に関する達成度については、個別評価において向上や低下もあるが、おおむね維持されており、全体としての進捗評価は昨年度と同じに据え置いた。
目標2	カリキュラムや教員組織については、毎年度、各分野ごとに開催される科目担当者決定に関する会合で常時継続的に議論、検証している。分野ごとの会合において、科目や授業内容、教員組織についても情報交換、議論を行い、常時継続的に検証している。さらに、2012年からは、大学院FD委員会にカリキュラムの定期的な検証を諮問し、答申を受けた。特に問題が生じていないため、研究科全体での会合は開催されなかった。
目標3	2012年度の修士学位授与数は23名、博士学位授与数は5名、過去3年間累積の修士学位授与数は61名、博士学位授与数11名であり、2012年度は大幅に増加した。若干の変動はあるが、安定的に修了者を輩出している。また、2013年度入学者数は前期課程で定員の57% (17/30)、後期課程で80% (4/5) となり、前期課程入学者数も若干増加した。前期課程入学者数のコース別内訳では、専門学識コースは定員の85% (15/20)、研究職コースは20% (2/10) であった。 在籍者数全体でも収容定員と大きくはかけ離れてはいないので、大学院組織全体でも活気がある。入試説明会を年4回開催するとともに、2012年度からは全学の大学院入試説明会にも参加している。このため、2012単年度の進捗評価はBとした。
備考	